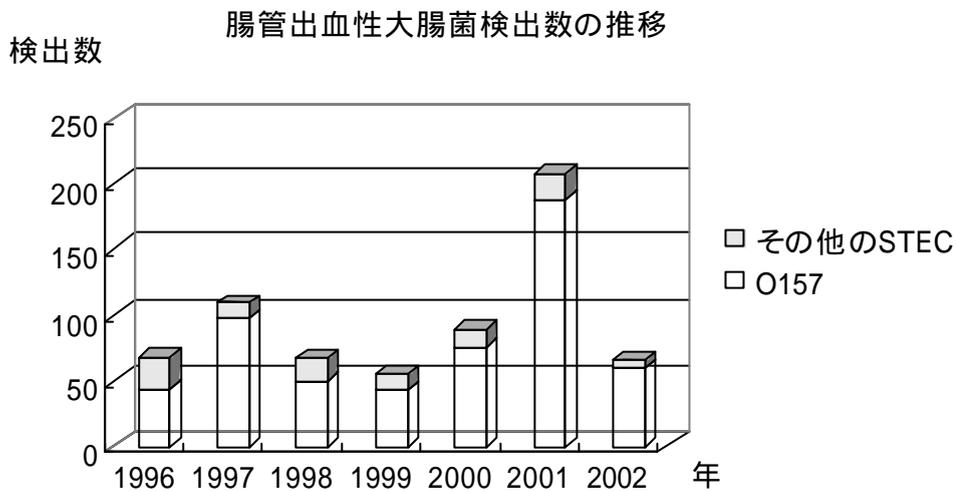


## 腸管出血性大腸菌の検出状況について

今年の埼玉県内における腸管出血性大腸菌（以下S T E C）の9月末日までの分離株数は63株で、激増した昨年と比べると例年並みであり、集団感染は確認されていません。



昨年は、広域に流通する食品を共通の感染源とする散発的感染事例 (diffuse outbreak) がいくつか確認され、感染者が急増しました。このようなケースでは、原因究明にパルスフィールドゲル電気泳動法（以下P F G E）が応用され、感染者から分離された菌の遺伝子パターンが一致していることを確認しています。本年当所にて分離された腸管出血性大腸菌O157 (60株)の遺伝子パターンは40パターンに分かれ、同一パターンを示す株数は少なく、また感染者に対する喫食状況等の調査結果も共通性に乏しく、共通感染源の存在は否定されています。しかしながら、P F G Eによる遺伝子パターンが多岐にわたり、牛肉製品以外にも野菜等の加工食品が原因食品となった感染事例が増えていることは、S T E Cの汚染が保菌牛だけでなく、牛舎を超えて潜在的に自然環境中に広がっているものと思われます。あらゆる面からの人への感染が考えられますので、今後とも検体採取や情報提供等のご協力をお願いします。